



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
（奈良県保健環境研究センター内）
N a r a I D S C



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 気になる話題～インフルエンザ⑥～ NEW
- 月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（1 月月報） NEW
- 病原体（ウイルス）検出情報（1 月） NEW



（調査週） 平成 24 年 第 6 週 2 月 6 日（月）～2 月 12 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	インフルエンザ	31.95	→～↑	→～↑	→～↑	→～↑
2	感染性胃腸炎	4.51	→～↓	→～↓	→～↓	→～↓
3	A 群溶連菌咽頭炎	0.86	→～↑	↑	→～↓	→～↓
4	水 痘	0.66	→～↓	→	↓	↓
5	RS ウイルス感染症	0.46	→～↓	→～↓	→	→～↓

※インフルエンザ定点あたり報告数は、全県で警報レベル継続中です。

県北部地区概況 報告数は919例で、前週報告の1212例から急減。上位5疾患は、①インフルエンザ、②感染性胃腸炎、③A群溶連菌咽頭炎、④水痘、⑤RSウイルス感染症の順。A群溶連菌咽頭炎の報告数（24例）も、やや増加。水痘の報告数（18例）は、ほぼ横ばい。RSウイルス感染症の報告数（5例）も、ほぼ横ばい。インフルエンザの報告数（1065→786例）は、急減。感染性胃腸炎の報告数（73例）は、3週連続で減少。なお、インフルエンザ定点からの報告の内訳《（ ）内は定点当たりの報告数》は、奈良市HC管内；345例（31.36）、郡山HC管内；441例（27.56）で、両管内共に前週報告より減少するも、奈良市HC管内のみが警報レベルを継続中であった。郡山HC管内基幹定点から、マイコプラズマ肺炎が3例（1～4歳児、10～14歳児、20～24歳症例が各々1例ずつ）報告された。奈良市HCおよび郡山HC両管内眼科定点からの報告はなかった。（村井 記）

県北部外来状況：2月初旬をピークにインフルエンザが減少傾向になっている。大半がA型であるがB型も徐々に増えている。抗インフルエンザ剤の効果はどれも大差はない。A型とB型に今シーズン罹ったかたもそろそろ増えてきた。感染性胃腸炎はインフルエンザの流行に圧倒されたのか少ない。ロタウイルスは現在みられない。溶連菌感染症が増加傾向にある。（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、第5週の1106例から第6週は890例と減少した。上位の5疾患（第5週→第6週）は、①インフルエンザ（1001例→789例）、②感染性胃腸炎（66例→64例）、③RSウイルス感染症（6例→8例）、④咽頭結膜熱（3例→7例）、⑤突発性発疹（5例→6例）の順であった。インフルエンザは5週よりやや減少した。眼科定点からは、葛城HCより流行性角結膜炎2例の報告があった。基幹定点からの報告はなかった。（徳田 記）

県中部外来状況：外来数はまだ多い。インフルエンザは若干減少の印象があるが、まだ迅速陽性例が続いている。主はA型であるがB型もある。幼児より中高生が多い。重症例はなくタミフル耐性と思われる例もない。感染性腸炎の流行も続いている。嘔吐を主とするノロウイルス様例が主。下痢、発熱を伴う例もある。幼児とその親の感染が多い。今冬ロタウイルスはない。他に水痘、RS、アデノ（腸炎）等があった。マイコプラズマは減少した。（岡本 記）

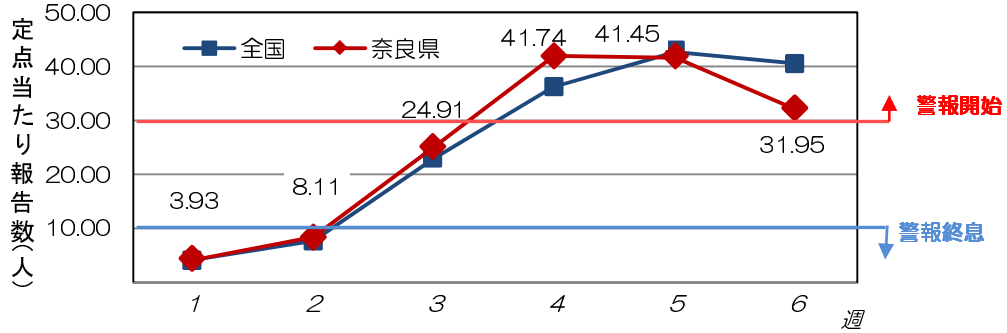
県南部地区概況 報告数（第5週→第6週）は244例→212例と推移。報告のあった疾患は、①インフルエンザ（214例→182例）、②感染性胃腸炎（13例→21例）、③RSウイルス感染症（3例→3例）、④A群溶連菌咽頭炎（1例→2例）、④突発性発疹（4例→2例）、⑥水痘（5例→1例）、⑥流行性耳下腺炎（0例→1例）であった。（柳生 記）

県南部外来状況：外来数は減少しているが日により変動あり。インフルエンザは第4週での激増をピークに週を追って減少しているが、まだ学級閉鎖もあちらこちらで続いている。A型が主であるが、B型が少しずつ増加、A型に続いてB型に罹患したものもいる。A型の二度罹り例はない。マイコプラズマ肺炎もあり、注意が必要。溶連菌感染症もあり。感染性胃腸炎は目だって多くない。アデノウイルス有り。ロタは認めていない。（山本 記）

【気になる話題 ～インフルエンザ⑥～】

奈良県の第6週（2/6～2/12）の定点当たり報告数は、31.95人と前週に比べ減少しましたが、警報レベルは継続しています（警報終息基準値：10.00）。

引き続き、うがいやマスクで喉の湿度を保ち、感染防止につとめてください。



※奈良県定点当たり報告数のみ数値を記載

図. インフルエンザ定点当たり報告数の推移

表. 保健所別定点当たり報告数

調査週	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野	県合計	全国
第6週 (2/6~2/12)	31.36	27.56	29.91	41.82	37.67	23.00	31.95	40.34
第5週 (1/30~2/5)	39.73	39.25	35.55	55.45	39.67	31.67	41.45	42.62
第4週 (1/23~1/29)	34.64	41.75	32.36	58.64	42.00	39.33	41.74	35.95
第3週 (1/16~1/22)	17.36	26.44	19.73	32.09	17.00	45.00	24.91	22.73
第2週 (1/9~1/15)	4.91	9.06	6.55	10.27	3.67	17.00	8.11	7.33

：警報レベル ：注意報レベル

(感染症情報センター 記)

【月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（1月月報）】

平成24年1月に、奈良県内の定点医療機関より保健所に届出のあった月報告対象感染症の報告数は以下の通りです。

・STD患者数（人）

疾患名/報告月	1月		前月（12月）	
	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数
性器クラミジア感染症	7	0.78	11	1.22
性器ヘルペスウイルス感染症	3	0.33	4	0.44
尖圭コンジローマ	1	0.11	2	0.22
淋菌感染症	6	0.67	3	0.33

・薬剤耐性菌感染症患者数（人）

疾患名/報告月	1月		前月（12月）	
	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	20	3.33	30	5.00
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	6	1.00	6	1.00
薬剤耐性緑膿菌感染症	2	0.33	1	0.17
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0

（感染症情報センター 記）

【病原体（ウイルス）検出情報（平成24年1月）】

病原体定点医療機関から保健環境研究センターウイルスチームに搬入された検体の、1月におけるウイルス検出状況は以下の通りです。

患者数（平成24年1月検出分）

検出病原体		北和	中和	南和	臨床診断名
ノロ	GII	1	3	2	感染性胃腸炎(6)
インフルエンザ	AH3	3	3	2	インフルエンザ(8)
インフルエンザ	B	1	2	1	インフルエンザ(4)

（保健環境研究センター 記）